

材料工学委員会（第 25 期・第 10 回）

議事要旨

I 日 時 令和 5 年 9 月 27 日（水）14：00～16：00

II 会 場 遠隔会議（Zoom）

III 出席者 委員 22 名、欠席者 委員 13 名
オブザーバー 9 名

IV 議 事

0 前回議事要旨の確認

・材料工学委員会（第 25 期・第 9 回）の議事要旨を共有し、承認された。

1 第 25 期材料工学委員会・分科会活動報告

・材料工学委員会（山口委員長）、バイオマテリアル分科会（埴委員）、SDGs 分科会（所委員）、将来展開分科会（岸本委員）、新材料科学検討分科会（山口委員長）、ローリング分科会（筑本委員）より、それぞれの今期の活動の総括が報告された。ダイバシティ WG（中野裕美委員）からも活動の総括があり、次期継続の意志表示があった。

山口委員長から課題別委員会の活動の報告があり、材料工学分野の研究力に関するコメントを他分野と合わせ取りまとめ、内閣府に提出したこととこれに関する謝意が述べられた。

2 材料工学委員会からの意思の表出状況

バイオマテリアル分科会、SDGs 分科会および、ローリング分科会の 3 件の意思の表出概要が紹介され、委員間で議論がなされた。

3 ジェンダー調査（全材協）解析結果の紹介（中野裕美委員）

・全材協ジェンダー調査を中心に、工学・特に材料工学分野でのジェンダーギャップの解析結果に関して報告があり、各委員から意見が述べられた。その後、全材協で情報公開について検討いただいて、本調査結果を「全材協と学術会議材料工学委員会の材料工学分野のジェンダーバランスに関する共同調査（2022）」として、議事録の添付資料として公開することとした。

4 次期への申し送り事項

細野委員、片岡委員、乾委員等から次期活動への期待が述べられ、山口委員長から

学術会議は現在大きな変革時期にあるが、引き続き材料工学分野の存在意義を示す活動の継続をお願いしたいとの発言があった。

5 その他

- ・特になし。

VI 配布資料

資料1 前回議事要旨（第25期・第9回）（配布なし・画面共有）